

# 大豆ほ場におけるアレチウリの発生状況と防除体系

福島県農業総合センター 作物園芸部 畑作科

部門名 普通畑作物－大豆－雑草防除

担当者 平敏伸、安田裕基子、古和田壘

## I 新技術の解説

### 1 要旨

アレチウリはつる性で、従来の除草剤では効果が低く、果皮に刺状の棘を持つため生育が進むと手取り除草も困難となる難防除雑草で、特定外来生物に指定されている。蔓延すると大豆の草冠を覆い尽くし収穫が不能となる事例もみられる。そのため福島県内におけるアレチウリの発生状況を確認するとともに、発生地域での防除に効果的な薬剤と防除体系を明らかにした。

- (1) アレチウリは中通りを中心に発生が拡大している。蔓延したほ場が広範囲に存在し(図1)、大豆の減収、収穫の不能、次年度の作付け断念等の被害が発生している。
- (2) フルチアセットメチル乳剤(アタックショット乳剤)は、アレチウリが3葉期以前の処理で効果が高い。それ以降の葉齢では上部のつるや葉は枯れるものの、下部からのつる伸長がみられる(図2)。
- (3) 大豆ほ場でのアレチウリの効果的な防除体系(図3)を策定した。

### 2 期待される効果

- (1) アレチウリの対策が必要な地域を提示し、注意喚起に資する。
- (2) アレチウリの効果的な防除により、被害を低減できる。

### 3 適用範囲

- (1) アレチウリの発生が懸念される地域及び発生した大豆ほ場

### 4 普及上の留意点

- (1) アレチウリは、4～9月の長期間に渡り発生し、また除草剤処理をしても葉齢によっては枯れ残って生育を続ける場合がある。
- (2) 開花期前の8～9月頃までに手取り除草を組み合わせる防除を行うが、特定外来生物に指定されており、生きたまま他の場所に運ぶことは規制されているので注意する。
- (3) 単年度での効果は限られており、複数年にわたって防除する必要がある。
- (4) 法面などからの侵入が発生要因としてあるので、ほ場周辺の防除も適宜行う。
- (5) 薬剤により、大豆に薬害が出るものや器具洗浄剤が必要なものがあるので注意する。

## II 具体的データ等

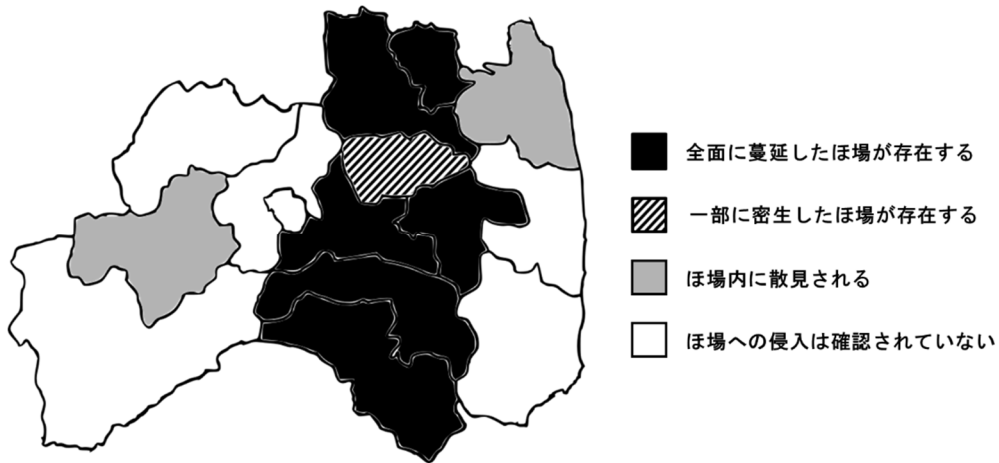


図1 各地区のアレチウリの発生状況（2020年、普及部所単位）

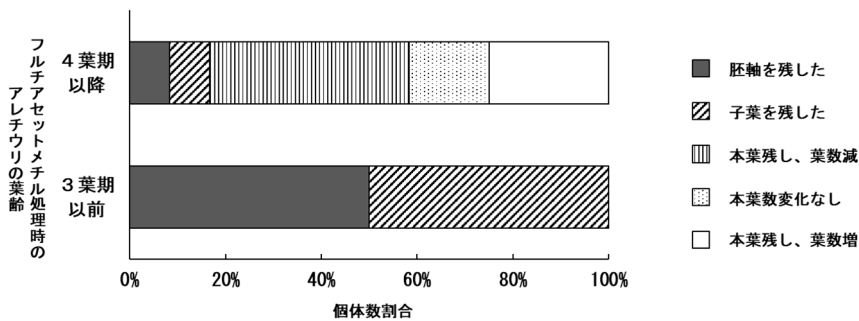
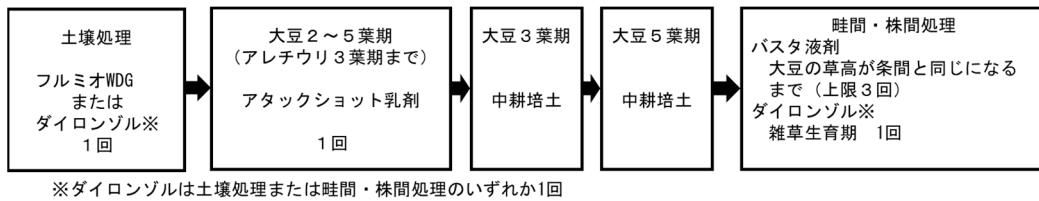


図2 フルチアセットメチル乳剤(アタックショット乳剤)処理6日後のアレチウリの枯凋程度



※ダイロンゾルは土壌処理または畦間・株間処理のいずれか1回

図3 アレチウリの防除体系

## III その他

### 1 執筆者

平敏伸

### 2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成27年度～令和2年度
- (2) 研究課題名 大豆の省力・安定栽培技術の確立 難防除雑草の防除法の確立

### 3 主な参考文献・資料

- (1) 宮城県普及技術（平成26年度），大豆作における難防除雑草アレチウリの対策
- (2) 大豆用新規茎葉処理除草剤フルチアセットメチル乳剤の雑草種別効果と初期薬害、農研機構 技術紹介パンフレット（2019）
- (3) 令和3年版 福島県病害虫防除指針